話題提供者・相談員のプロフィール
&
申請者へのメッセージ

Cultural Representations
表現文化論講座

金沢 英之
（日本古典文化論研究室・教授）

専門は日本上代文学・神話史。奈良時代に成立した『古事記』『日本書紀』などの作品理解と、そこに記された神話の後代における享受史の両面から研究を行っています。
自分自身でも院生時代の学振採択経験あり。
現在、ゼミ生にも複数の採択者がいます。

皆さんは論文を何のために書きますか？自分の考えや発見を読み手に伝えるため。それには具体的な証拠や論理が必要になります。学振の申請書もその延長。何をするためにどうしたいのか、具体的かつわかりやすく書くことを心掛けてください。

Philosophy and Religious Studies
哲学宗教学講座

白水 大吾
（博士1年・2020年度学振DC2採択）

専門は、イギリス哲学。「イギリス観念論」の代表的哲学者であるF. H. Bradleyの形而上学と倫理学を中心に研究しています。

私が申請書を書くときは、「審査員の先生は私よりよくものを知っている」ということをいつも心に留めていました。
これはけっこう大事な心構えだと思っています。

History
歴史学講座

橋本 雄
（日本史学研究室・准教授）

専門は、中世日本国際交流史。文化財科学や美術史、文学などのアプローチに学びながら、外交文書や貨幣、雪舟などを研究中。 それぞれに科研費を使って共同研究や「一人学際」をやっています。

「この研究は自分にしか出来ない！」「税金を投入するにふさわしい、世界に貢献できるテーマだ」と思えるくらいの迫力で、申請書は書いてほしいですね。

Behavioral Science
行動科学講座

大沼 進
（行動科学研究室・教授）

専門は、環境社会心理学、行動科学。最近はリスク学、ゲーミング・シミュレーション学、科学技術社会論など、合意形成に関する学際研究に軸足を置いています。

よき申請書を書くという行為は、自分の頭を蛸壺化させず、異なる専門分野の人とのコミュニケーションを可能にします。多様な専門分野との遭遇は、間違いなくあなたを豊かにしてくれます。そのチャンスと思って積極的に申請書を書きましょう。

中田 星矢
（修士2年・2020年度学振DC1採択）

専門は、専門は文化進化・人間行動進化・社会心理学。

ひたすらに読みやすい申請書を書きましょう。そもそも内容がわからないと、研究の面白さも意義も伝わりません。その上で自分の研究の斬新さと計画の堅実さのバランスをアピールできると、よい評価につながると思います。

Regional Science
地域科学講座

池田 透
（地域科学研究室・教授）

専門は、保全生態学、野生動物管理学、社会生態学、外来種管理問題。
競争的資金の採択経験・指導経験豊富。

専門以外の人にも内容が理解できるような丁寧な説明を心懸けるとともに、内容が一目で把握できるポンチ絵やインパクトのある図などの工夫も効果的です。抽象的な記述は避けて、研究の実現可能性を具体的にアピールしましょう。

※相談会会場に、採択された申請書の閲覧コーナーを設置予定です。（複写・持出禁止）